

「加賀立国 1200 年」を契機とした地域の歴史PRと学びの場創出

指導教員 金沢学院大学 文学部 講師 戸根比呂子

参加学生 知田真幸・小谷友也・石原梢・稲村悠花・今井咲良・馬木竜矢・大森公太・金井明日香
絹川史香・小堀真依・米屋智香・坂下愛加梨・新崎結七・高巢瑠海・得田航生・半間結
松島亮太・向井新・山本優希・輪湖幸太・稲原健太・首藤祥希・織田惟吹・小林光成
末上佳聖・松田亜斗夢

1. 活動の成果要約

本事業では小松市・能美市に所在する古墳を題材に、地域の歴史PRのための活動を行った。現在休館中である小松市河田山史跡資料館のリニューアルを周知するため、リーフレットを作成、配布した。また、地域住民とともに、河田向山古墳群の清掃と地形測量調査を実施した。調査成果は、報告書を作成中であるほか、現地説明会により公開予定である。さらに、今後の遺跡の周知や活用の展望について、地域住民と意見交換を行った。

2. 活動の目的

小松市では古代加賀立国 1200 年となる 2023 年を機に、関連する歴史文化の普及啓発事業を進めている。事業には市民の協力が不可欠だが、コロナ禍での中断もあり、より主体的・継続的な活動が困難となっていた。

そこで、本校考古学ゼミ生を中心に、特に遺跡の普及啓発活動を実施することとした。まず、遺跡の周知のため、リーフレットの作成を行い、さらなる普及啓発の提案を行うこと。また、古墳の測量調査を地域住民とともに進めることで、中断していた活動を再開し、かつ、学生と地域住民が協働するきっかけを作ること。さらに、活動についての情報発信を行うこと。こうした活動により、地域の歴史PRを目指すこととした。

3. 活動の内容

今年度は事業初年度であることから、特に上半期は小松市内の遺跡や古墳群について知り、その魅力や特徴を探ることから始めた。その成果として、河田山古墳群のリーフレットの作成を行った。また、下半期には、古墳の活用のための基礎データ作成のため、河田向山 2 号墳の測量調査を行い、その成果を取りまとめた。

A) 河田山古墳群のリーフレット作成・活用策提案（5～10月）

河田山古墳群の特色や、活用にあたって注目すべき視点を探るために、発掘調査報告書や出土品に関連する論文を熟読し、グループでの討議や発表を行った。また、小松・能美市内の古墳群や施設を見学し、古墳の立地や現地の状況を体感し、理解を深めた。見学に当たっては、小松・能美市の担当者より説明いただいた。

以上の事前学習や現地視察を踏まえ、河田山古墳群の紹介パンフレットを作成した。河田山古墳群には、現在、史跡資料館があるが、2022 年 7 月で休館し、2023 年 7 月にリニューアル



図1 リーフレット案の中間報告会



図2 リーフレット掲載写真の選定

オープンの予定である。そこで、リニューアルオープンの周知も兼ねたパンフレットという位置づけとして、古墳の魅力をもとめた。さらに活動の総括として、古墳群の今後の活用策についての意見交換を行った。

リーフレット作成に際しては、小松市より、既存の地図データや、調査写真・遺物写真データの提供を受けた。リーフレットに掲載する写真も、学生がフィルムに目を通して良いものを選ばせていただき、文化財の記録写真を閲覧する良い機会となった。また、リーフレット案に対するコメントをいただき、より市の活動にも役立つ内容としてまとめることができた。



図3 河田向山古墳の清掃の様子

B) 河田向山古墳群の平板測量調査の実施（9～11月）

河田向山古墳群の清掃（草刈り、枝拾い）、2号墳の平板測量を実施した。清掃作業は、地域住民とも協力して作業を進めた。平板測量は、測量の専門の機材を用い、考古学の学びを活かしたフィールドワークとして、主に学生と小松市職員が作業を行った。



図4 河田向山古墳の測量の様子

調査にあたっては、小松市より、地域住民・土地所有者との連絡調整、道具の貸与（測量機器、草刈道具等）の協力、関連遺跡報告書・測量データの提供等を得た。能美市より、休憩や道具置場の提供（泉台公園、手洗いあり）・施設管理の協力を得た。地元企業（株式会社地域みらい）の協力を得て、最新機器を使用した測量方法や、測量成果を用いた遺跡の活用方法について学ぶことができた。



図5 ウォークラリー係員の様子

C) その他関連するイベントへの参加、活動の周知等（随時）

国府校下地域協議会の協力を得て、加賀立国1200年ウォークラリーの係員として、参加者誘導等を行った。

また、活動状況は、本学学園祭のパネル展示等でも報告したほか、随時、新聞報道等でも取り上げてもらった。

4. 活動の成果

<活動結果のまとめ>

- ・リーフレットの作成・配布、学園祭でのパネル展示、新聞報道等により、各方面からの周知活動を進めることで、2023年度に控えた「加賀立国1200年」を盛り上げるPRにつながった。
- ・現地測量の実施、測量成果の刊行という形で、加賀立国1200年に関連する河田向山古墳について、学術的検討に耐える成果を得ることができた。
- ・考古学を専攻する学生が、実際の遺跡でのフィールドワークを行い、それが地域に還元され、役立ったことを実感する、得難い機会となった。



図6 リーフレット成果品

<事業の成果>

A) 河田山古墳群のリーフレット作成・活用策の提案

リーフレットは当初計画のとおり 1,000 部印刷し、小松市内小中学校や地元団体や、県内関連施設を中心に配布した。

また、リーフレット作成を通して、古墳群の魅力や今後の活用策についても考えを深めることができ、下記のような意見としてまとめることができた。

★学生からの遺跡活用の提案★ 河田山古墳群を事例に

①まずは知ってもらう
 例えば・・・SNS での周知、YouTube での動画配信、学校等への訪問授業・展示など

②イベント等の開催で定期的に人が集まる機会をつくる
 例えば・・・史跡巡りウォークやクイズイベントの開催、「古墳マイスター」の創設
 甲冑のペーパークラフト、消しゴムハンコ作りなどものづくり講座の開催

③古墳に来たくなるよう現地を整える、説明や解説を充実させる
 例えば・・・アーチ型石室の特徴や全体像がわかるレプリカの設置
 石室内見学+解説員付き
 9号墳の調査、整備（園路整備、墳丘範囲の表示、看板の設置など）

B) 河田向山古墳群の平板測量調査

測量調査の結果、古墳は園路工事により若干の削平を受けているものの、良好な状態で保存されていることが明らかとなり、今後、活用していく題材としうることを確認できた。また、これまで円墳と考えられていた河田向山 2号墳が、長辺 20mを超える方墳の可能性が確認できた。さらに、地域住民の精力的な協力により、古墳群がこれまで知られていた 7基にとどまらず、計 9基存在する可能性が確認できた。

なお、現在、測量や活動成果の報告書を作成中である。また、現地説明会を開催し、成果を報告する予定である。

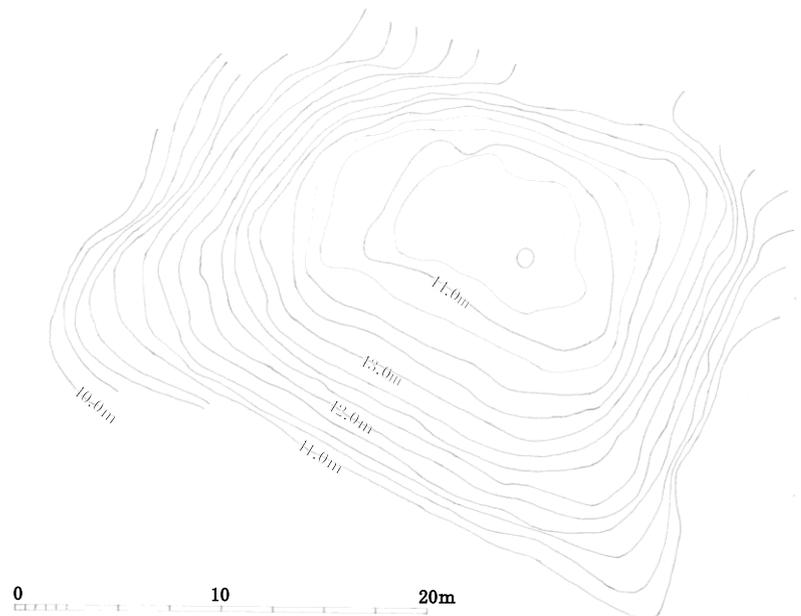


図7 河田向山 2号墳測量成果図【製図：坂下】

C) その他関連するイベントへの参加、活動の周知等

本学学園祭においてパネル展示で活動内容を報告したほか、来場者へ制作したリーフレットを配布した。測量調査や、産官学連携の取り組み状況については、新聞でも取り上げてもらうことができ、地域の活動として周知することができた(計 3回)。なお、現地作業初日の報道を見た他大学の学生が、翌週の活動に参加するなど、大きな効果を実感する場面もあった。

また、当初の予定外であったが、国府校下地域協議会の協力を得て、加賀立国 1200 年ウォークラリーの係員として、参加者誘導等を行った。古墳群の周辺に加賀立国に関連する様々な遺跡が存在することを学生も知ることができた。

<貢献事項>

- ・河田山古墳群のリーフレット作成・配布により、古墳群だけでなく、資料館のリニューアルオープンに向けての周知を図った。
- ・現地説明会の実施、学園祭でのパネル展示、新聞社による活動状況の報道により、古墳群や地域の取り組みとして、広く周知した。
- ・リーフレット作成や、遺跡・施設見学を通し、これらの活用策について、学生の意見を提供した。
- ・河田山古墳群の測量調査による 2号墳の現況把握など、今後の活用策の検討に耐える、学術的な調査データを提供した。

5. 次年度以降の計画

上記のとおり、遺跡の現地での活動は、学生の学びの場としても、地域の歴史PRの観点からも、効果的であることを確認できたことから、次年度以降も継続していきたい。

具体的には、河田山古墳群及び河田山1・9号墳の測量調査や、小松市との協議次第では、範囲内容等確認のための発掘調査を実施していきたい。調査成果は、当初計画のとおり、現地説明会での公開や、調査報告書としての刊行、これらを踏まえた活用案の提案等を通し、地域住民が古墳群を知るきっかけとなるような仕掛けづくりを継続的に行っていく。

また、今年度は、地域の歴史PRについてはリーフレットの作成を目標としていたため、さらなる遺跡の活用案は小松市に対し提示するにとどまったが、実際に挙げられた意見は学生が自分たちでも取り組めるものがほとんどであった。来年度は、何をすれば地域の歴史PRにつながるか、学生主体で行動計画から検討し、いずれかを自分たちで実現することを目標としてみたい。

さらに、加賀立国1200年ウォークラリーのような地元主導のイベントにも参加・協力し、学生・行政・地域の個々の活動を有機的につなげ、展開できるよう取り組んでいきたい。

6. 活動に対する地域からの評価 連携地域団体からの評価や、今回の結果を活かした今後の活動の予定など

小松市担当者より、下記のとおり評価をいただいた。

コロナ禍でストップしていた「加賀立国1200年」に向けた市民活動を、無事、再開することができた。その起爆剤となる、古墳の調査を進めていただいたことに感謝している。

調査では、考古学専攻生による本格的な測量を進めてもらったことで、古墳の形や数など、学術的な成果を得ることができた。何より、学生が真剣に、そして、楽しそうに調査に取り組んでいる姿が印象的だった。その姿に、地元団体の清掃活動にも一層力が入ったようで、結果的に、古墳群全体を周遊できるほど清掃作業が進み、期待以上の効果であったと感じている。今後は、測量成果を活かした整備やイベントなどを考えていきたいので、また協力をお願いしたい。

リーフレットは学生が小松・能美市域の古墳や資料館を巡った上で作成し、河田山古墳群の魅力が詰まったものに仕上がった。また、その過程で気付いたことを、古墳群の活用策として提案してもらえた。中には今後の活用の鍵を握る河田山9号墳の発掘調査、という案もあった。地元団体からも測量調査の継続や発掘調査の実施を希望する声があり、双方の提案が実現できそうだと期待している。

来年度は、いよいよ「加賀立国1200年」の節目の年を迎え、小松市としてもいろいろなイベントを企画している。学生からの提案や、古墳の調査成果をうまく絡め、地域の歴史PRに結びつけつつ、事業を進めていくことを楽しみにしている。